

# こんにちば

「アベノミクス」3本の矢

## 実態は5本の毒矢

### ・第1の矢・無制限の金融緩和

日本銀行が今後2年間で、140兆円ものお金を金融機関に出します。国民に金を配るわけではありません。金融投機の市場にお金が吸い込まれていきます。

### ・第2の矢・危機招く財政出動

つまり、国の予算で、大型公共事業などをバンバンやって、ドンドン国の借金をふやすこと。そのツケは結局私たち国民に廻ってきます。

### ・第3の矢・規制緩和で大企業中心の成長戦略

非正規労働者だけでなく、正社員も自由に解雇、残業代は払わないなどの規制緩和。弱い立場の国民はどうなる？

### 4、“隠し矢”第1

#### 消費税を来年から引き上げることを今秋に決定

今は静かにして、参議選後に決める。「デフレ克服」とか『物価2%上昇』とか言っているのは、消費税の値上げを決めるため。今の値上げだけでは済まない大増税がやってくる。

### 5、“隠し矢”第2・社会保障の大改悪

年金は10月から値下げ、医療や介護の自己負担や保険料も増えていく。これでは国民は暮らしていけません。

## 憲法96条改憲

### 改憲論者からも反対の声

自民党は、憲法9条を変えようとしています。そのハードルを低くするため、安倍首相は、「まず96条を変える発議に必要な衆参議員の(3分の2)確保ができる可能性が出てきた(4/20)」と意欲を見せていました。

しかし、小林節慶応大教授など、改憲論者からも「憲法改正ではなく憲法破壊で、論外」だと、96条を先に変えることに、反対の声が上がっています。

#### 憲法は主権者である国民が権力者を縛るもの

憲法は、主権者である国民が国家・権力の暴走を抑止するためにあるもので、与党が自分たちの「改正案」を通しやすいようにルールを変える。国会の多数派の交代に応じて憲法が変わるようでは、憲法を憲法でなくしてしまいます。「国民の多数派に歯止めをかけて、少数派の人権を保障することが憲法の目的」です。

安倍首相は、「立憲主義」とは何なのか、真剣な議論もなくあまりにも安易で邪道に走っているといわざるを得ません。

### 郷土の蝶 ⑧ ウラナミアカシジミ

初夏の五月下旬頃出現する、翅表全面が明るいオレンジ色の小型のシジミチョウです。このチョウは、昼間はおとなしく梢の葉上で休んでいますが、夕方になるとコナラ主体の樹上をひらひら乱舞します。

幼いころ、雑木林の脇で兄と一緒に家の農作業を手伝っていた時に、このチョウの飛翔に出会い、そのオレンジ色の乱舞をながめ、余りの美しさに、しばし見とれ、農作業を忘れて呆然と眺めた思い出があります。

この蝶の学名は *Japanica saepestrata*、この蝶の親戚に、似た色合いのアカシジミ (*J. Itea*) がいて、ともにコナラ林に一緒に生息しています。どちらも習性は同じ様に薄暮時に飛翔します。日本以外では、朝鮮半島から中国大陸西南迄分布し、四川省、甘肅省の雑木林でよく観察しました。



今は、おそらく、区内では簡単に見られないのではないかと思います。しかし、案外とどこかの雑木林で、生き永らえていて、季節になるとあの美しいオレンジ色の乱舞を、夕陽を浴びながら披露しているかもしれません。

(H)

## 井上ひさし展 を見て

井上ひさし(廈)展が開かれています。

横浜港を見下ろす「港の見える丘公園」近くにある神奈川県立近代文学館で、4月20日から6月9日までの予定で、3年前に惜しまれつつ75歳の生涯を閉じた、直木賞作家の井上ひさしさんの展覧会が開催中です。しんぶん赤旗の潮流欄で知り、早速、出かけました。

本牧市民公園行きのバスを元町で下り、商店街を抜け、坂道を登ったりして10分後公園に出ます。春たけなわ、咲き誇る花壇の美しい花々を横目に、歩道橋を渡りきると文学館にぶつかります。600円の入場料を払い、順路に従って拝観して行きました。

東北の山形県小松町で生まれ、5歳の時に死に別れた、薬剤師、社会運動家、又、プロレタリア作家でもあった父修吉の蔵書の影響で、反戦平和や社会の不正に対する批判精神を育まれたようです。↗

また、母マサのどんな苦境にも負けない強い生活力と楽天性が、ユーモア精神あふれた彼の著作の源泉だと思います。

代表作の「吉里吉里人」、また「手鎖心中」、「キンポット」シリーズ等のユーモア小説、広島原爆を扱った「父と暮らせば」、日本の米自給問題、憲法問題、そのほか大変多くの著作を残しており著作のすべてが宝物といえます。



県立近代文学館で

また、井上さんは、9条の会の呼びかけ人の一人で、生前は講演会に東奔西走され、貴重なお話を聞かれた方も数多くおられると思います。

井上ファン、文学、平和を愛する人、更に井上さんの著作を読まれたことのない人にも、是非この展覧会に行かれ、井上文学の素晴らしさ、平和に対する思いを感じ取っていただきたいと心から願う次第です。(K)

## 市民アンケートより

日本共産党横浜市議員団が、3~4月に全戸配布で行った、「市民(横浜市政)アンケート」は、5月14日までに429通の回答がありました。

新市庁舎整備構想に対する意見が多数寄せられ、429通のうち、構想に賛成する意見が10通、異を唱える意見が64通です。また、中学校給食の実施を望む声が多数寄せられました。

### 「新庁舎建設よりも、もっと市民のためになることに資金を活用して」

●「新市庁舎建設計画の603億円に驚いています。耐震工事に50億円かけているのに、考えられないです」(70歳代女性)

●「移転したら現在地域は多大の影響を受けて倒産する業者も出ます」(中区、80歳代男性)

●「私は小田原市で育ったので、中学校給食があるのが当然だと思っていましたが、横浜市はないと知り、大変驚きました。…中学生は成長期でバランスのとれた食事をする必要があるので、どうしても栄養の偏ってしまうお弁当を食べなければならないなんてかわいそうです。」(20歳代女性)

一般市民の要求を実現してくれる市長をと、「市民の市長をつくる会」では、5月2日、柴田豊勝さんを市長候補として発表しました。8月に市長選挙があります。

## 歴史散歩 ⑩ 平戸の歴史 平戸平和台②

前号で、「平和台」というのは地名ではないと書きましたが、知らない方が多かったのに驚きました。平戸町の字「大郷山下」と「蒔田野」が地名です。50年もたっているのに「平戸平和台」が地名と言ってもよいでしょう。かつては、鎌倉郡平戸村、明治22年(1889年)に鎌倉郡川上村大字平戸となり、昭和14年(1939年4月)横浜市に編入、戸塚区平戸町となりました。旧平戸町には「谷戸」が7つあり、平和台は、国道から「スナック古都」の前を入りまっすぐ行き、旧東海道までの道を「蒔田野谷戸」といい、国道からスーパー・ユータカラヤ前の道から旧東海道までを「谷宿(やじゅく)谷戸」と呼んでいました。

### 蒔田野から平戸平和台に

昭和39年に人口が増えてきたため、蒔田野の町内会を「平戸平和台町内会」として立ち上げました。

昭和57年(1982年7月)に、表示変更により平戸町北東部が、「平戸1~5丁目」となりました。

現在、平戸1~3丁目までが「平戸平和台地区連合町内会」、平戸町と平戸4~5丁目(電電団地)が「平戸地区連合町内会」です。

小学校は、川上小学校(今の柏尾バス停近く)で、1年生だけは北部分校(今の東戸塚駅に近い坂下バス停付近・S43年廃止)に、山を2つ越えて通いました。(E)